報道関係者各位

2020 年 3 月 19 日
神宮の杜芸術祝祭実行委員会

日本博　主催・共催型プロジェクト
明治神宮鎮座百年祭記念

神宮の杜芸術祝祭 祭る。祈る。創る。

―持続可能な自然と芸術文化―

明治神宮の杜を舞台に、日本人の自然観を体現した芸術と文化の祝祭が開幕

明治神宮創建 100 年を記念して、初の試みとなる野外彫刻展「天空海闊」をはじめ、明治神宮ミュージアム、宝物殿など、神宮の杜各所で美術展やイベントを開催。 多彩な展示イベントをとおして、自然と深くかかわりながら創作活動を行ってきた日本の芸術・文化のあり方を展望します。

【神宮の杜 次の 100 年へ】

2020 年に創建 100 年を迎える明治神宮。そのシンボルとして、鎮守の杜として、また、都会のオアシスとして広く親しまれているのが、70 万平方メートルにも及ぶ「神宮の杜」です。創建当時、この辺り一帯は南豊島御料地（皇室の所有地）でした。現在の御苑一帯を除いては畑がほとんどで、荒れ地のような景観が続いていたそうです。神宮の杜は天然の杜ではなく、明治神宮創建にあたり、「永遠の杜」を目指し、全国から献木されたおよそ 10 万本を植栽した人工林なのです。 「神宮の杜芸術祝祭」は、この杜を舞台とした芸術と文化のフェスティバルです。約 1 年間にわたって、日本人の自然観を体現した芸術や文化を、様々な展覧会やイベントで展観し、次の 100 年に向けたサスティナブルな神宮の杜のあり方を発信していきます。

【神宮の杜芸術祝祭とは】

「神宮の杜芸術祝祭」では年間を通して、明治神宮内苑・外苑各所で、様々な美術展やイベントを展開していきます。神宮の杜各所に立体作品を展示する野外彫刻展、明治神宮ミュージアムにて約 30 人のアーティストが屏風、掛け軸、衝立、扇面といった日本古来の美術品のかたちにあわせた新作を発表する「百年の杜のアート」展、宝物殿を会場にした「彫刻の系譜－平櫛田中から名和晃平まで」展を開催し、自然と深くかかわりながら創作活動を行ってきた日本の美術のあり方を展観します。 また、被災地復興や地域創生の観点からは、被災地の花を感謝の気持ちとともに届ける「サンクスフラワー・プロジェクト展」や「祭りの力」などを開催。未来を担う子供たちへのプログラムとしては、神宮の杜を対象とした「森のフィールドワーク」や「デジタル写生大会」など、数多くのイベントを開催していきます。

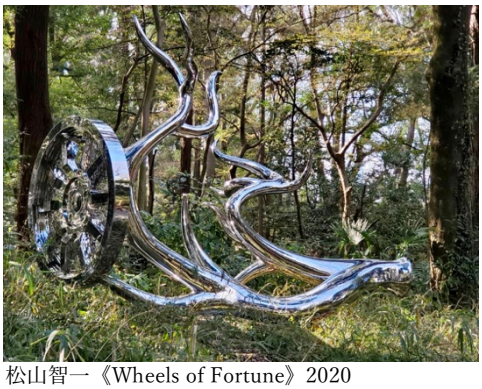
1. 2020 年 3 月 20 日開幕イベント

神宮の杜 野外彫刻展「天空海闊（てんくうかいかつ）」
名称：　神宮の杜　野外彫刻展「天空海闊（てんくうかいかつ）」
会期：　2020 年 3 月 20 日（金・祝）～2020 年 12 月 13 日（日）＊会期中無休
時間：　明治神宮の開門・閉門時間に準じます
会場：　明治神宮　内苑各所（詳細は会場マップをご覧ください）
入場：　無料
出展作家（＊五十音順、敬称略）：名和晃平、船井美佐、松山智一、三沢厚彦
アーティスティックディレクター：山口裕美

【3 月 20 日から展示される作品】

名和晃平《White Deer (Meiji Jingu)》2020

船井美佐《Paradise/Boundary-SHINME》2020


松山智一《Wheels of Fortune》2020

三沢厚彦《Animal 2012-01B》2012/2019

芸術祝祭のオープンを記念し、2020 年 3 月 20 日（金）に開幕するのは、野外彫刻展「天空海闊（てんくうかいかつ）」です。「天空海闊（てんくうかいかつ）」とは、果てしなく続く空、快晴の空へ向かって、大らかに広がることを意味します。明治神宮として初の開催となる野外彫刻展には、名和晃平、船井美佐、松山智一、三沢厚彦の 4 名のアーティストが、圧倒的な自然に溢れる 70 万㎡の明治神宮の杜を舞台に作品を展示します。アーティストたちが明治神宮を訪問し、設置場所に足を運び、明治神宮の歴史や文化を理解し、尊敬や畏怖の気持ちを持って制作したそれぞれの作品は、神宮の杜の木々と対峙し、呼応し、佇んでいます。新しい作品との出会いをお楽しみいただける特別な展覧会です。

展示の舞台となる明治神宮の杜は、緑豊かな都会のサンクチュアリとして親しまれていますが、実は 100 年前につくられた人工の杜であることはあまり知られていません。当時の森林学や造園学、都市工学を採り入れながら、持続可能な自然と都市づくりを念頭に、日本全国から集まった若者たちによる奉仕活動で造られた杜であるというこの事実を、野外彫刻展をとおして見直すことは、次の 100 年の自然と都市、そして芸術のあり方を考えるうえで有益となるでしょう。

【出品作家紹介】

名和　晃平 Kohei NAWA

彫刻家／SANDWICH Inc.主宰／京都造形芸術大学教授 1975 年生まれ。京都を拠点に活動。2003 年京都市立芸術大学大学院美術研究科博士課程彫刻専攻修了。2009 年、京都に創作のためのプラットフォーム「SANDWICH」を立ち上げる。独自の「PixCell」という概念を軸に、様々な素材とテクノロジーを駆使し、彫刻の新たな可能性を拡げている。近年は建築や舞台のプロジェクトにも取り組み、空間とアートを同時に生み出している。2018 年、フランス・ルーヴル美術館にて彫刻作品“Throne”を特別展示。2015 年以降、ベルギーの振付家/ダンサーのダミアン・ジャレとの協働によるパフォーマンス作品“VESSEL”を国内外で公演中。

天空海闊展示作品について

鹿は古来から「神使」や「神獣」として、アニミズムや神道などの信仰のなかで親しまれて来た。近年、日本では鹿が増え続けており、人里に時々現れる鹿は「迷い鹿」と呼ばれる。“White Deer”はインターネット上に現れた鹿の剥製を取り寄せ、3D スキャンして得たデータを元に制作された。宮城県石巻市で開催されている芸術祭『Reborn-Art Festival』では、復興を願う象徴として牡鹿半島・荻浜の海辺に White Deer が立っている。神使が呼び寄せられたかのように、White Deer が姿を変えて明治神宮の杜に現れ、鎮座百年を祝福し訪れる人々を出迎える。

画像上：作家写真

画像下：White Deer (Oshika) 2017/mixed media/632.5 × 448.5 × 438.0 cm/©Reborn-Art Festival 2017/photo : Keiko Watanabe(Pontic Design Office)

船井　美佐 Misa FUNAI

1974 年 京都府生まれ。2001 年 筑波大学大学院芸術研究科日本画修了。二次元と三次元の「境界」をテーマに、線描によるドローイングや、鏡やシェイプドキャンバスを用いたインスタレーションの作品を制作する。物質としての絵画と、非物質的なイメージについて考え、平面や立体という形式を超えて絵画の可能性を拡張する。近年は「楽園」を鏡で描くシリーズで、鑑賞者が作品の中に入り込み、過去と現在、想像と現実が交差する作品を展開する。2009 年・2010 年「VOCA 現代絵画の展望」上野の森美術館。個展「Paradise/Boundary～いつかいた場所～」国際芸術センター青森、など。

天空海闊展示作品について

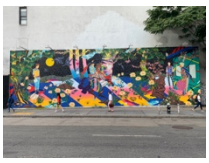
本作品は神馬を奉納する絵馬の風習と明治天皇の愛馬金華山号から馬をモチーフに描 いている。明治の近代化によって現代の基礎が作られ日本の絵画も東洋の様式から西 洋的な文化を取り入れ大きく変化した。100 年が経ち、森は大きく育ち、江戸から東京 へと都市は発展した。それらの歴史を振り返り、想像上の馬が森に出現することによ って、ここからまた 100 年後の新しい未来に想いを馳せる場としたい。

画像上：作家写真

画像下：「 COMET 大地をひらく 星をみあげる」2017 ステンレス、鉄 かけがわ茶エンナーレ・五明彗星の丘

松山 智一 Tomokazu MATSUYAMA

1976 年東京都/岐阜県出身。上智大学卒業後 2002 年渡米。NY Pratt Institute を首席で卒業。 ペインティングを中心に彫刻やインスタレーションも手がける。 世界各地のギャラリー、美術館、大学施設等にて個展・展覧会を多数開催。 また、アメリカ西海岸最大の美術館 Los Angeles County Museum of Art (LACMA)、Microsoft コレクション、ドバイ首長国の王室、銀行 Bank of Sharjah のコレクション、サンフランシスコのアジアンミュージアム等に、松山の作品が多数収蔵されている。 現在はニューヨークにスタジオを構え、活動を展開している。



天空海闊展示作品について

今を生きるアーティストとしてのリアリティと、 国際言語としての日常をクロスオーバーさせた、2.6 x 4m のモニュメント彫刻の作成。 鹿の角を単体で鎮座させ、その形態は荘厳な森の木々をオマージュしながらも、 万物を映すという神道の哲学に基づき、鏡面に仕上げている。車のホイールを銅鏡に見立て、組み合わせた本作品は、現代における同時代性と、古来より存在する普遍性を抽象的に表現している。

画像上：作家写真

画像下： Untitled/バワリーミューラル/幅 20m, 高さ 6m (65 x 20ft)/ミクストメディア /2019

三沢　厚彦 Atsuhiko MISAWA

1961 年、京都府生まれ。1989 年、東京藝術大学大学院美術研究科修士課程彫刻専攻修 了。2000 年、動物の姿を等身大で彫った木彫「Animals」を制作開始。同年より西 村画廊(東京)で個展開催。2001 年、第 20 回平櫛田中賞受賞。2007–08 年、平塚市美術 館など全国 5 館で巡回展開催。以後、各地の美術館で個展を多数開催。近年の個 展に 2017 年の松濤美術館、2018 年の横須賀美術館、富山県美術館など。2019 年、第 41 回中原悌二郎賞受賞。現在、武蔵野美術大学教授。神奈川県在住。

天空海闊展示作品について

「動物」と一口に言っても、私たちの概念には、例えば獣としてのそれだったり、物 語の登場人物のような架空の存在としてのそれだったりと、様々な様相が混在している。それらの内のどれでもなく、もしくはどれでもあるようにも見える彼の彫刻は、 我々の内側に在る「Animal」という概念をそのまま抽出したかのようである。

画像上：作家写真

画像下：「Animal 2012-01」/ 2012/樟、油彩 /131 x 76 x 292 cm

撮影: 三沢厚彦©Atsuhiko Misawa, Courtesy of Nishimura Gallery

被災地復興支援への「サンクスフラワー・プロジェクト」展

名称：　被災地復興支援への「サンクスフラワー・プロジェクト」展
会場：　明治神宮　第二鳥居前　小径、フォレストテラス
概要：　2011 年の東日本大震災をはじめ、2016 年の熊本地震、2018 年の西日本豪雨、北海道胆振東部地震 等々、近年、日本においては全国で様々な大規模災害が頻発しています。そしてその都度、国内だけでなく海外からも様々な支援をいただき、それぞれに復興の道を歩んできました。そうした国内外の温かい支援に対して、被災した地域を中心とした日本全国の花によって感謝の気持ちを表現しようというのが、「サンクスフラワー・プロジェクト」です。今回、「永遠の杜」をコンセプトに、沢山の人々の協力によって造られた明治神宮の杜を舞台に、年間を通じて、日本の様々な感謝の花を展示していきます。

第一弾　「東北桜奉納祭」 3 月 20 日～

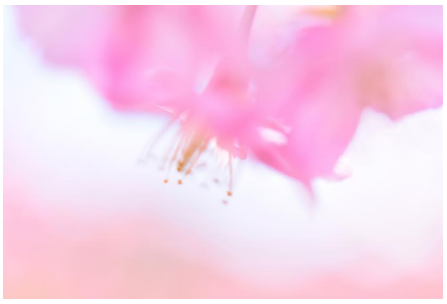
東日本大震災後、世界中からのご支援で
青森県、岩手県、秋田県、山形県、宮城県、福島県の
多くの人が元気と勇気をいただきました。
明治神宮鎮座百年のお祝いと、
これまでのご支援への感謝を東北の桜に込めました。
違う土地、違う環境で育った花たちが
共に咲く姿をご覧ください。
逆境に負けず咲く花のような笑顔が
東北と世界に溢れますように。

展示のポイント：　東北の大地で育った桜の木々を同時に満開にする。
根付き桜を展示し、産地に祝い木として持ち帰り、百年後に再訪を目指す。
アーティスト：　中川聖久　（株式会社マサ&アーティスト）
小林祐治　（GEOMETRICGREEN.inc）

今後の展示予定：

5月2日～　熊本震災復興支援感謝特別企画　熊本の花奉納祭
6月6日～　福島・秋田・長野・新潟（シャクヤク）奉納祭
7月16日～　沖縄の花奉納祭　ジンジャー、ストレチア、チューベローズなど
8月1日～　東北（ダリア）奉納祭
8月23日～　北海道の花奉納祭　デルフィニューム、ひまわり
9月3日～　中国四国地域、高知県、三里農協のグロリオサを使用した奉納祭
10月22日～ 九州の花奉納祭　トルコキキョウ、スカビオサ、カスミソウ
10月31日～ 中京関西地区　菊を使った奉納祭
※天候や開花状況により、日程変更の可能性がございます。

主催　一般社団法人サンクスフラワープロジェクト、神宮の杜芸術祝祭実行委員会
協賛　福島県塙町、FLOWER KING、プランツパートナー
後援　青森県、岩手県、秋田県、山形県、宮城県、福島県
特別協力　日本航空　新 JAPAN　PROJECT
協力　全農山形、全農秋田、全農岩手、日本花き振興協議会


画像：朝山まり子

2. これからの主なイベント予定

「紫幹翠葉(しかんすいよう）」2020 年 6 月 12 日(金）～9 月 30 日(水)／ 明治神宮ミュージアム

画像：朝山まり子

「紫幹翠葉(しかんすいよう)」とは、紫の木の幹、緑の木の葉という意味から、景色が青々としていて、美しい様子を表します。縄文時代から日本人は、富士山や桜だけでなく、田んぼや雑草、野鳥などといった日常の暮らしの風景に、美しさを見い出してきたのです。
この展覧会では、東北・遠野の風景を描く本田健、動物や鳥を得意とする笛田亜希をはじめ、山本太郎、天明屋尚、平川恒太、といった現代アーティストらが、明治神宮やその鎮守の杜に思いを寄せ、自然や暮らしを対象に畏怖と尊敬、情熱を込めて制作した作品を中心に展示を行います。その表現の形として選んだのは、屏風、掛け軸、衝立(絵画)、扇面といった日本古来の様式。特に扇面形の絵画作品は実力と才能を兼ね備えた注目の現代アーティスト」(約 30 人)に依頼、1 つの壁面に展示する予定です。

「気韻生動(きいんせいどう)」 2020 年 7 月 15 日(水）～9 月 30 日(水)／ 宝物殿

画像：平櫛田中

「気韻生動(きいんせいどう)」とは、絵画などの芸術作品に、気高い風格や気品や、生き生きとした生命感や迫力、さらには情趣にあふれていることも意味し、明治の思想家・美術評論家の岡倉天心が作家や作品に対して、目指した境地でもあります。
この「気韻生動」展では、明治以降の日本近代美術から現代美術までの彫刻・立体の系譜を再評価。近代・ 現代彫刻に大きな影響を与えた明治期の彫刻家・平櫛田中から、世界で活躍する現代アーティスト・名和晃平までの、彫刻・立体の系譜を辿り、日本の今を世界へ発信します。
宝物殿の中にある国の重要文化財の指定を受けている展示ケースの中に、平櫛田中賞受賞作家や平櫛田中の精神を受け継ぐ新しい表現の立体作品を展示し、素材と表現に関して、各アーティストが挑戦した美を一同に集める企画です。

「神宮の杜の茶会」

□神宮の杜茶会「五彩」奈良宗久監修　2020 年 6 月 6 日 ／ 隔雲亭
□神宮の杜現代アート茶会　2020 年 5 月 2 日、3 日/ 絵画館茶室
　「行雲流水」東京藝術大学茶道部
　「雲中白鶴」慶應義塾大学裏千家茶道慶茶会

「次の百年につなぐ　子供達のプログラム」

渋谷区観光協会連携　夏休み企画

□神宮の杜デジタル写生大会
□アートワークショップ　アーティスト：船井美佐・笛田亜希・平川恒太（予定）
□子供達と森のフィールドワーク
□神宮の杜ウオークラリー

「これからの千年の杜へ 伝統と革新のアート」展」 2020 年 11 月 1 日(日）～10 日(火)/絵画館

渋谷区観光協会・表参道商店会連携プロジェクト

□森のデジタルアーカイブ展示/神宮の杜デジタル写生大会展/アートワークショップ展
□明治神宮の杜の写真展
□親子で取組む明治神宮・表参道の古い写真・映像を使用したワークショップ展

3. 観光インバウンド対応「AI NAVI Tenshin」の導入

アートをはじめとする文化を活かした新しいビジネスモデルやイノベーションの創出を目指し、インバウンドをはじめとする多様な来訪者にとっての訪問先での体験をより深めてもらうことを目的に、スマートフォンで利用可能な対話型 AI-Navi サービス「AI NAVI Tenshin(テンシン)」の実証実験を開始します。

明治神宮の 3 か所の入口（原宿口、代々木口、参宮橋口）および、内苑内のフォレストテラスに配置された「神宮の杜芸術祝祭」の看板および、野外彫刻等の紹介看板に、「AI NAVI Tenshin」のサイトに入るための QR コードが記載されています。その QR コードを、ご自身のスマーフォンで読み取っていただくと、「AINAVI Tenshin」サイトに繋がり、音声ガイドの利用が可能となります。
説明スポット（MAP に表示）周辺で、「これは何？」「どんな作者？」「どうやるの？」「トイレどこ？」などと、音声で質問していただくと、野外彫刻展の作品やアーティストの情報、また、明治神宮で授かることができるお守りに関する情報など、神宮の杜芸術祝祭や明治神宮の参拝をより楽しむための情報が沢山入手できます。
是非、明治神宮に足を運んでいただき、「AI NAVI Tenshin」をご体験ください！

本システムは、IT ベンチャーやコンテンツ企業等の多様な企業が集う「コンソーシアム企画」として開発されました。具体的には、AI による会話生成と GPS を活用した対話型の音声操作については、コグラフ株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役：森 善隆）、インバウンド客や多様な属性のユーザーに対して使いやすいユニバーサルデザインに配慮したインターフェイスについては、ディスプレイ最大手の株式会社乃村工藝社（本社：東京都港区、代表取締役：榎本 修次）、チケット購入サービスについては、株式会社イーティックスデータファーム（本社：東京都港区、代表取締役社長：原田 栄二）のシステムを利用します。

「AI NAVI Tenshin」の主な特徴

【テクノロジー】
●GPS＋会話技術～屋外位置情報と連動した会話によるインタラクティブな情報取得
●多言語対応～案内看板いらずの音声デジタル化
まずは、日/英対応。段階的に、中国語や韓国語などに対応予定

【ユーザビリティ】
●すぐに使える～スマホアプリのインストール不要／ガイド端末不要
●音声読み上げ～ガイド対象を順次追加・アプリ利用者によるアップデート作業が不要
●チケット購入サービスや、クーポンサイトと連携

【マーケティング】
●アンケート機能搭載・生声の感想収集についても将来、対応予定

4. 開催概要

名称：　2019/2020 日本博 主催・共催型プロジェクト
「神宮の杜芸術祝祭」祭る。祈る。創る。
－持続可能な自然と芸術文化－

会期：　2020年3月20日（金・祝）～ 2021年3月31日（水）

– オープニング・フェスティバル：2020 年 3 月 20 日（金・祝）～ 2020 年 3 月 22 日（日）
– 美術展等 2020 年 3 月～ 12 月
– 現代文化展等 2020 年 5 月～ 12 月
– 自然・環境・共生社会関連企画 2020 年 3 月～ 2021 年 3 月
– 観光インバウンド・被災地復興・地域創生 2020 年 3 月～ 2021 年 3 月
– 茶会・現代アート茶会 2020 年 GW、6 月

主催：　文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会日本博事務局、
神宮の杜芸術祝祭実行委員会、一般社団法人アートパワーズジャパン

特別協力：明治神宮

連携：　明治神宮鎮座百年記念事業

後援：　経済同友会、仙台・岩手・福島経済同友会、渋谷区観光協会、原宿表参道欅会、
読売新聞社、日本テレビ放送網株式会社

特別協賛：日本航空株式会社、株式会社ミクシィ

協賛：　株式会社伊藤園、共立製薬株式会社、東京地下鉄株式会社、日本カルミック株式会社、
株式会社乃村工藝社、東日本旅客鉄道株式会社、セコム株式会社、大日本印刷株式会社

協力：　東京藝術大学大学美術館、小平市立平櫛田中彫刻美術館、井原市立田中美術館、
慶應大学裏千家茶道慶茶会、東京藝術大学茶道部

＊上記、主催～後援は予定も含む

開催テーマ：「伝統と革新」祭る。祈る。創る。－持続可能な自然と芸術文化－

開催趣旨：2020 年、明治神宮は、創建100 年を迎えます。次の100 年へと歩みを進めるこの記念すべき年、明治神宮の鎮守の杜を舞台に、芸術と文化の祭典「神宮の杜芸術祝祭」を開催します。テーマは、「祭る。祈る。創る。」。神宮の杜を舞台とすることで、日本における「自然」と「文化・芸術」のつながりを再認識し、日本の美意識の再発見と海外発信を目指します。
厳かな雰囲気をまとった大自然の中での野外彫刻展や美術展や、神宮周辺で発展した現代文化の企画展など、多様なイベントを年間を通して実施。あわせて、被災地振興や地域創生のイベントを開催し、祈りの心を世界に発信していきます。

広報お問い合わせ

神宮の杜芸術祝祭実行委員会　広報担当
メール：　press@artpj.jp
電話：　03-5774-6511
URL：　https://jingu-artfest.jp/